

掲示板のことば

比
べ
る
必
要
が

な
い
ほ
ど

平
等
な
こ
と
は

あ
り
ま
せ
ん

2018. 10

私たちには、分別する心が自然と備わっています。お買い物に行って、ぶどうを買おうと思った時、房の実の付き方を見て、実の大きさを見て、美味しそうなものを選びます。野菜もそうでしょう。比べて、選びます。

それ自体、悪いことではありません。厄介なのは、そこに自分の評価が入り込んでくることです。つまり、美味しそうでないものを見捨てるのですね。野菜や果物なら、仕方ないのかもしれませんが、私たちは、その心で、いのちを評価しているのです。そこに、問題があるのでしょうか。

金子みすゞさんに、「わたしと小鳥とすずと」（裏面参照）という詩があります。この詩から私は、違いを認めるということを教えていただきました。「みんなちがって、みんないい」という言葉は、仏さまの言葉のように聞こえます。

私の先生は仏さまの心を「えらばず、きらわす、みすてず」とおっしゃいました。野菜や果物のように、私たちは「えらび、きらい、みすてる」心です。しかし仏さまには、「ちがい」ということは必要ないのでしょうか。

いのちの尊さは、本来、比べる必要がないのですね。

真宗大谷派 光明寺住職 小林尚樹

—わたしと小鳥と鈴（すず）と—

わたしが両手をひろげても、
お空はちっともとべないが、
とべる小鳥はわたしのよう、
地面（じべた）をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすっても、
きれいな音はでないけど、
あの鳴る鈴はわたしのよう、
たくさんのうたは知らないよ。

鈴と、小鳥と、それからわたし、
みんなちがって、みんないい。

金子みすゞ